

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

28

VOL.



ミサゴのワシ掴み

撮影：草津市 梶山 和紀さま

5/28(日)快晴の日、東近江市いきもの調査隊に参加、「伊庭内湖でミサゴを」と皆が期待しましたが一向に現れません。あきらめかけた頃、ついにミサゴが飛来！すーっと高度を下げて着水、魚をしっかりとワシ掴みに！決定的瞬間を目の当たりにしました。調査隊専門員：山崎亨さんのお話では、魚は巣に持ち帰りヒナのエサにするそうです。体力温存のため、滑空で巣に戻れるよう高度を上げて滑空可能な距離を計算するとの事！ある程度の高さまで羽ばたき、上昇気流を探しては乗り、どんどん高度を上げていき正に滑るように帰って行きました。見事なハンティングだけでなく「羽ばたき」の運動エネルギーと「高さ」の位置エネルギーによるハイブリッドな省エネ飛行を見届け、調査隊メンバーもミサゴに心をワシ掴みにされました。 梶山 和紀

**自慢の自然環境(生物・植物・その他)
写真をお持ちの方、投稿して下さい。
皆さんのネットワーク通信への参加を
お待ちしております。**

びわ湖を知る ■ 問題 

ミサゴの英語名はどれでしょうか？

- ① オスプレイ
- ② ハリアー
- ③ ゴールデンイーグル
- ④ ファルコン

特集 1ページ

滋賀県立琵琶湖博物館

学芸技師 鈴木 隆仁 様より



ヨシに暮らす小さな住人達

【プランクトンだけじゃない？いろいろな微小生物】

琵琶湖をはじめとして、水田や溜池、河川、沼、苔の中など、さまざまな身近な場所にたくさんの微小生物たちが暮らしています。微小生物たちはよく「プランクトン」とひとまとめにされがちですが、実はプランクトンだけではないのです。このプランクトンと言う分類は、生きものを「生活様式で分けた分類のひとつ」で、水の流れに逆らえない浮遊生物を指す言葉です。そのため、微小であるかどうかは実は無関係だったりします。例えばエチゼンクラゲの様な1メートルを超すプランクトンもありますし、逆にツリガネムシの仲間の多くは0.1ミリメートル以下で微小ですが、何かに張り付いて生活しているので、ペリフィトン(付着生物)と呼ばれます。他にも水底を這いまわる生きものをベントス(底棲生物)と言い、イタチムシや一部のワムシ、ミズなどが含まれます。水の表面で生活する生きものはニューストン(水表生物)と言い、アメンボや一部のミジンコが含まれたりします。生活様式で分けるので、例えばミジンコの仲間の中でも、ベントスのケブカミジンコ、ニューストンのアオムキミジンコ、プランクトンのカプトミジンコと言ったように、さまざまに呼び方がわかるのです。



『ケブカミジンコの仲間』(水底を這うように移動する。)



『タイリクアオムキミジンコ』(水面に張り付くように泳ぐため、殻の腹側が平らになっている。)

【ヨシの水質浄化と微小生物】

ヨシ帯は水中のリンや窒素を吸収し、それを人が刈り取ることで、水質浄化に役立つというのは有名な話です。そして、実はその水質浄化の一翼を微小生物たちも担っています。夏場、ヨシの表面を良く見てみると、何やらモヤモヤしたものがたくさん付着しているヨシが見つかります。そのヨシを採集して顕微鏡で拡大してみると、ヨシの隙間を泳ぐプランクトンや表面に付いたペリフィトン、根元やミドロの森をかけるベントスなど、たくさんの微小生物たちが生活しているのが見つかります。彼らこそが、水中の掃除屋です。カイミジンコやミズズの



『カプトミジンコ』(琵琶湖でもよく見られるミジンコ。頭部の棘が中世の兜のように見えるのが由来である。)

特集 2ページ

仲間は比較的大きな水中の有機物を食べて分解します。ラップムシ、ツリガネムシ、カイメン、ワムシ、コケムシなどはフィルターフィーダー(ろ過食者)と呼ばれ、水中の小さな有機物をこしとって食べています。そして、彼らが消化し、排泄したものを吸収してヨシがさらに成長するのです。また、ヨシ帯があることで水の流れがゆるやかになります。ヨシ帯が流れをゆるめることで、水中の有機物はヨシ帯に溜まり、その有機物の粒を微小生物たちが食べ、糞がヨシを育てるといふ、ヨシと微小生物たちの共同作業によって水の浄化が行われているのです。

【ヨシは生物のマンション】

ヨシ帯はさまざまな生き物たちが生活の場や産卵の場になっています。ワタカやフナ、コイなどの魚類、サカマキガイなどの貝類、そして無数の微小な生き物たちがヨシの隙間や表面を棲家にしており、たくさんの生きものに生活の場所を与えるその様子はさながらマンションのようです。

ヨシは水質を浄化するとともに、その表面や隙間に多くの生きものを棲ませることで、水域の生物多様性を高める効果もあります。そして、そのような場所ではもちろん新発見もあります。2009年にはJiと楠岡により新種のツリガネムシの仲間、アポカルケシウムロゼッタム (*Apocarchesium rosettum*)が記載されました。まるで打ち上げ花火のような特徴的な、このツリガネムシはヨシの表面から多数見つかっています。

ヨシの表面にはまだまだ多くの生きものたちが、棲んでいます。この中にはきっとまだ誰も見つけていない、誰にも気づかれていない生きもの達もいるかもしれません。

ヨシ帯は放置されると徐々に土が溜まり、他の植物が繁茂し、失われていってしまいます。ヨシ刈りなどを行い、しっかり手入れをし、ヨシ帯を維持することで、水質浄化だけでなく、多くの生物に生活の場を与え、生物多様性を守ることもつながるのです。



『さまざまな生物が付着したヨシ』(一見ゴミが着いているようだが、ほとんどが生物である。)



『ヨシ表面のツリガネムシたち』(ヨシの表面をジャングルのように覆っている。)



『琵琶湖から記載されたツリガネムシ、アポカルケシウムロゼッタム』

ネットワーク 広場

株式会社 柿木花火工業

代表取締役 柿木 博幸 様より



滋賀県唯一の花火メーカーです。

創業昭和25年、初代(祖父)栄一、二代目(父)一幸、私で三代目となります。二代目がそれなりに大きく基盤を築いて頂いたのですが、当の私は大手の会社に就職し、全く跡を継ぐ気は無く、夏場の忙しい時だけ手伝うような感じで来ていました。私が25歳の時に転機が訪れました。友人の死をきっかけに、死んだらどうなるのか？どこへ行くのか？生きるとは？生まれてくるとは？などなど深く考えたのです。皆さんも少くくは考えたことがあるかと思いますが、当然答えは出てきません。中でも、生まれてきた理由などを考えることが多くなり、花火屋に生まれてきたのだから・・・やっぱり成らんとあかんのかなと考えているときに、最終的に決めた理由は、親父は家で仕事の愚痴を言ってなかったことと、楽しそうに食事の時に話をしていたことが思い浮かび『ヨシ！やろう！』と決断しました。

継ぐと決めましたが、世間では三代目が『ヤバイ』と言われていましたので、とにかく修行に行って他社の花火や最新の演出方法などを基礎から学ばないと変革の時代に対処できずに倒産は明らかです。そこで、修行先を探し、静岡の大手の花火業者に5年お世話になりました。そこでの多くの経験が今日の私を作ってくれたのです。



『青い花火 (ブルーインパルス青い衝撃)』



『長浜花火 オープニング スターメイン』

滋賀県産の此処ならではの花火を創るべく、花火の燃えカスの極めて少ない綺麗な花火を開発し、平成20年から昨年までに数々の賞を頂き、諏訪湖新作花火では準優勝を頂くことができました。また、「濃い青色花火」の開発に成功し、イメージ名『ここに咲く紫陽花の華(青い花火)』を発表した2年前に、秋田県大曲新作花火コレクション：銅賞、諏訪湖：長野県知事賞、更に今シーズン7/15の伊勢神宮奉納全国花火大会でも「佳作」に入賞するなど多くの舞台で滋賀県産の花火を広くPRすることが出来、先代、先々代の恩に報いることができたかと思えます。



『長浜花火 デジタル旋風』



『長浜花火 最終 スターメイン』



『生分解性プラスチックが
溶けている様子』
(ゴミの量を通常の1/15程度
まで減量化した「エコ花火」)

★★ これからも、事故無く皆さんに安心して楽しんでいただける花火を創り続けて行きます。★★

ネットワーク アルバム

ヨシでびわ湖を
守るネットワーク

伊庭内湖 外来魚釣り大会のようす

6月25日(日)

『梅雨の合間・・・外来魚駆除釣りには絶好のコンディション。
例年にないBigサイズのブラックバスを回収出来ました。』



『ネットワーク参加者:173名
ブラックバス:13匹
ブルーギル:496匹 大漁!』



西の湖 カヌー&和船でヨシ原観察のようす

8月5日(土)

『台風接近? 風は微風、雲の合間から時折差し込む日差し・・・
最高の条件で、夏の西の湖(ヨシ原)を満喫出来ました!』



『湖面に映る雲・・・滅多に見れない幻想的な風景!』

『船頭より』

びわ湖を知る ■ 解答



① オスプレイ

ミサゴは空中で静止するホバリング飛行や急降下ができることからアメリカの軍用機「オスプレイ」はミサゴの英語名からつけられたそうです。



みんなの
リエデン

デザイン部門
優秀賞
第26回
日本
文具大賞
2017
ISOT
国際 文具・紙製品展



びわこテンプレートが
日本最大の文具アワード
「第26回 日本文具大賞」
デザイン部門 優秀賞受賞！

▲びわこテンプレート

琵琶湖がすらすら描ける、滋賀愛に溢れたテンプレートです。旅や活動の記録にも使え、滋賀県民ならではのワンプointも！

▼表彰式

7/5(水)、「第28回 国際 文具・紙製品展 ISOT」の特設展示コーナーにて(東京ビッグサイト)



～ 滋賀のこだわりが
全国へ羽ばたく～



この吉報を耳にした時、とても大きな喜びと驚きを感じました。皆様とともに歩み続けてReEDENは今年10周年を迎えます。記念すべき節目の年に、この滋賀愛に溢れた文具に栄えある賞をいただけたことがとても光栄です。これも、日頃の皆様のご支援のおかげと感謝申し上げます。また11年目以降への励みとし、引き続きReEDENの根幹であるコンセプトや思いを大切にしながら、新たな挑戦をしていきたいと思っております。これからも、どうぞよろしくお願いたします。



リエデン公式
Facebook ページ

このアイコンが
目印です →

REEDEN

☆新たな発信・繋がリツール☆
Facebook(フェイスブック)始めました！

リエデンの活動記録や新製品、お取扱店舗
情報などを発信しています。

「リエデン」で検索もしくは、以下URLから↓

<https://www.facebook.com/KPS.ReEDEN>

